

# 「オルガノイド研究の現状と展望」

日時：2019年7月24日（水） 10:30～16:10

場所：千里ライフサイエンスセンタービル 5F 山村雄一記念ライフホール

## 開催趣旨

発生の過程において、受精した胚は一種の幹細胞としてあらゆる組織を作り出し、生後の成熟によって機能的な組織が完成する。一方、成体組織の多くは、組織幹細胞の自己複製と分化により、その機能が維持される。こうした幹細胞からの複雑な組織形成・分化・維持のプロセスの理解は、2次元培養では不十分であった。近年、多能性幹細胞・組織幹細胞から様々な3次元組織構造体“オルガノイド”を作り出す技術が開発された。オルガノイド培養は、これまでブラックボックスであった組織形成・分化過程を“見える化”し、新しい知見を続々と生み出している。また、オルガノイドは生体組織に近い機能を有し、再生医療への応用が始まっている。さらに、疾患組織のオルガノイドモデリングによって、疾患の病態理解や創薬研究が注目を集めている。

今回、国際的な活躍をしているオルガノイド研究者を糾合し、どのようにオルガノイドを作り、研究に応用していくか、わかりやすく講演頂く。

演題・演者：(《\*》：コーディネーター)

- |             |  |
|-------------|--|
| 10:50～11:30 | <b>「オルガノイドにおける消化器疾患研究」</b>             |
| 佐藤 俊朗       | 慶應義塾大学医学部 オルガノイド医学 教授《*》               |
| 11:30～12:10 | <b>「卵母細胞系列の再構築系の現状と課題」</b>             |
| 林 克彦        | 九州大学大学院医学研究院 ヒトゲノム幹細胞医学分野 教授           |
| 12:10～12:50 | <b>「多能性幹細胞を用いた神経発生システムの再現と制御」</b>      |
| 永樂 元次       | 京都大学 ウイルス・再生医科学研究所 教授                  |
| 14:00～14:40 | <b>「ヒト肝臓を対象としたオルガノイド医学」</b>            |
| 武部 貴則       | 東京医科歯科大学 統合研究機構 教授                     |
| 14:40～15:20 | <b>「iPS細胞を用いた肺オルガノイドからの呼吸器疾患モデリング」</b> |
| 後藤 慎平       | 京都大学大学院医学研究科 呼吸器疾患創薬講座 特定准教授           |
| 15:20～16:00 | <b>「発生学をもとに腎臓を創る」</b>                  |
| 西中村 隆一      | 熊本大学発生医学研究所 腎臓発生分野 教授《*》               |

- 参加費：無料
- 定員：200名（定員になり次第締切り）
- 申込方法：氏名・勤務先・所属・役職名・〒・所在地・電話 を明記の上、E-mailでお申し込みください。（FAXによるお申し込みも可）事務局より「参加証」をお送りいたします。
- 申込先：セミナーN2事務局  
E-mail:dsp-2019@senri-life.or.jp  
FAX:06-6873-2002 TEL :06-6873-2001

**主催：公益財団法人 千里ライフサイエンス振興財団**